

# らしんばん

## 議会報告



2017年12月議会号  
発行日 / 12月31日

発行：静岡県議会議員 鈴木すみよし事務所



静岡県富士山世界遺産センター

### 目次

- 1. 県議会12月定例会開催 P1
- 2. 常任委員会「産業委員会」 P2  
での主な論戦から
- 3. 若者が望む社会のあり方 P2・3
- 4. 子ども虐待予防への P3  
取り組み  
地域の課題と進捗状況 P2・3
- 5. 議会外の視察・研究報告 P4  
老いて自らの人生を P4  
振り返り書き記す大先輩  
12月議会で決定した P4  
国へ提出される意見書  
ホットなつぶやき P4  
県政相談窓口 P4

### ハイライト



全国土地改良大会が沼津市で開催。先進事例を学ぶ。



静岡県消防大会にて優秀賞受賞の女性消防団員。



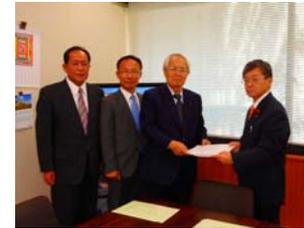
県内産食材とそれを活かした料理人の表彰式。



CNFの製品化に取り組む市内企業を知事と視察。



CNFはバラの香りのする化粧品に製品化された。



医療・福祉関連団体の要望書を担当部長に提出。



平成30年度予算要望を所属議員で知事に提出。

## 1. 県議会12月定例会開催(12月1日～12月21日まで開催)

12月定例会の前に平成28年度決算特別委員会が開催され、私は経済分野(経済産業費)の決算審議を担当しました。

本県における一般会計全体(1兆2,019億685万円余)のうち、経済分野関連施策支出の占める割合は3.4%となります。県全体の歳入(収入)は、1兆2,159億7,829万円余でした。

以下、12月定例会の概要を報告します。

地震津波対策では、中央防災会議は「確度の高い地震の予測はできないため改める必要がある」とし、長年の防災対策の教訓を生かした本県をモデル地区に選定した。

次期総合計画の策定は、若い世代の転出超過や、産業界を支える人材不足など、本県を取り巻く様々な課題を克服し、誰もが努力をすれば、人生の夢を実現して、幸せを実感して暮らすことのできる地域づくりを進めていく。

産業成長戦略の推進は、本県の景況は好調であり、来年度は、産業人材の確保・育成や、働き方改革、ICT等を活用した生産性の向上、EVシフトなどの産業構造の変化に対応した次世代産業の創出、農林水産業の競争力の強化を進めるため、「産業成長戦略2018」を策定する。

東京2020オリンピック・パラリンピックでは、本県で自転車競技が開催され、オリンピックを財産として後世に残せ

るよう準備を進めていく。選手村施設には本県産の木材が活用されることが内定した。文化プログラムでは、文化振興と地域活性化につながる事が期待される。

富士山世界遺産センターは12月23日に開館し、富士山の普遍的な価値の次世代への継承や、情報発信、交流機会の創出、総合的な調査研究に取り組む。

地域外交は、県内企業の現地展開や販路拡大支援のため、インドネシア、タイ、ベトナムの投資促進機関や、商社、金融機関などと連携を進めている。

富士山静岡空港は、国内線・国際線とも堅調で、旅客ターミナルビルの増築・改修は、国際線入国エリアが10月に完成し供用を開始した。

国民健康保険の制度改革では、半世紀にわたり、我が国の国民皆保険を支えてきた国民健康保険であるが、来年度(4月から)からは県と市町が共同で運営を行うため、現在、運営方針などについて協議を重ねている。

平成30年度当初予算編成は、地方税、地方交付税などの一般財源総額が今年度と同程度に据え置かれる中で、社会保障経費などの義務的経費が増加することにより、財源不足が拡大するなど、大変厳しい財政環境下での予算編成になる。

そのほか、次期総合計画の準備、台風21号等災害復旧、人件費補正、人事案件などを審議し採択しました。

今年度は、常任委員会は、産業委員会

特別委員会は、選挙区等調査特別委員会各委員に就任中



## 2. 常任委員会「産業委員会」での主な論戦から

**経済産業部関係では、ふじのくにCNFプロジェクトの推進**について、全国のCNF先進地の地域展開における各拠点間の相互連携・協力に関する取り組み状況では、各地域の特色を生かし、足りない分野を互いに補いながら取り組んでいる。

**GAP(Good Agricultural Practice)認証取得の推進**で、農業において、食品の安全、環境保全、労働安全などの持続可能性を確保するための生産工程管理の取り組みは、東京2020五輪に向け、食料調達基準を満たすための資格で、県は各農林事務所に資格取得の効率性や精度を上げるためのノウハウを詰め込んだタブレットを配布し、目標達成を目指す。

**台風21号の水産業被害**の原因は高波と高潮で、海岸間際の施設にとっては、平時の運用を考えると移設も簡単ではない。しかし、気候変動による影響は今後多いと予想され、単に復旧だけでなく防災対応を考えるべきで、県は対応について可能な限り現場の意見を聞きながら進めていく。

**県内大学に通う県外出身学生の地元への就職対策**については、「3. 若者が望む社会のあり方」で触れます。

**EVショック**は、電気自動車の急速な普及により、県内自動車産業の構造的改革の必要性と、県の危機感および行政として取り組むべき対策について質問。県内にはEV化で不要となるエンジンや変速機関連企業が多く、その下請けまで入ると影響は深刻です。今後は課題の分析などに取り組むとのことでしたが、来年度からは、県政の向こう10年間を決める次期総合

計画と、新たな静岡県経済産業ビジョンが始まることになり、その中に具体的な取り組みを検討して記すよう要望しました。

**企業局では、平成30年度から10年間にわたる、県企業局の経営戦略となる「第4期中期経営計画」**について質しました。

**工業用水道事業**は本県の産業活動を支え、地下水の環境保全にも重要な役割を果たしてきました。しかし、企業経営で製造コスト削減に取り組む中で、工水料金は一つの課題です。企業局にとっては、使用量の低下や単価値下げは、工水事業の悪化につながり、この改善を求めて給水収益の増収を目指すために、新規顧客開拓や維持管理費などのコスト削減、低コスト工法の導入、国の支援要請などを図るとしています。

給水料金を稼ぐためには、新規顧客開拓とともに給水料金の値上げも検討しなければなりません。民間企業経営に与える影響が大きくなり、最小限にとどめておく必要があります。

県企業局の**地域振興整備事業による工業団地の整備**は、新規顧客開拓支援につながり、民間や市町が整備するより手続きが簡略化されることで、工期が短縮することができます。

大局的な見地から、**県の関連部局が効果的に連携機能することが重要で、市町や企業とも連携**して、企業局の工業用水道事業にも貢献できるような体制づくりが重要です。県は私の提案に理解を示し、来年度から関係各方面に声をかけて**研究会を立ち上げる**ことになりました。

## 3. 若者が望む社会のあり方



「若者が望む社会のあり方」と題した小冊子。

「次代を担う若者たちによる県民会議」が取りまとめた、「若者が望む社会のあり方」という小冊子を紹介します。

平成28年1月に、24名の社会人と学生による「若者による県民会議」が開かれ、最初は意見交換にとどまりましたが、2回目以降はグループ討論形式となり、その結果を報告。また、今年2月には、公募により15歳から30歳の参加者を募り、東・中・西部の3箇所で開催したワークショップを積み重ねる方式となりました。

新しい時代を創造することは若者の役割で、日本でも選挙年齢が18歳以上に引き下げられ、若者の出番はもっと増えることに主眼を置いたこの会議には、大変、意義があります。

冊子では冒頭で、「あなたにとって豊かさや幸せとは何か」を問いかけています。**景気が良かった時代の経験がなく、阪神淡路大震災以降の大きな震災を目の当たりにし、そして人口減少時代を迎えました。**

**景気回復よりも人々を豊かに、しあわせにさせてくれるものは何か。人口や税収が減少しても、地域の営みや生活が充実したものになる仕組みはないだろうか**という視点で、議論を進めたといえます。

この会議では、「**こうしてほしい**」という要望型ではなく、「**やってみよう**」という**提案・行動型**を目指したということでした。また、興味のあるところは、**首都圏をはじめとする従来の大都市指向を一旦捨て、静岡県にある未来の魅力を磨き、理想の未来を実現できないか**を議論し、取りまとめています。

本県から離れても、ふるさとを想う人や、本県に移住したい人に対し、「**帰りたくなる、住んでみたくなる静岡県**」にするためには、**本県を外から見た視点が貴重**であり、幅広い意見を求めたいと記されていました。

アウトプットとして、「理想の社会の実現に向けた12のビジョン」が示されており、なかなか面白い内容となっています。

私は学生時代や社会に出て企業に勤めていた頃、外から地元を見る機会が多々あり、また世代的に良い時代を経験してきました。**地元を離れて初めて気付く、ふるさとへの愛着**は

### 地域の課題と進捗状況 (各地の要望から)



秋の森づくり県民大作戦に参加するNPO法人「鎮守の森を育てる会」。地道な活動で市民への啓発が図られる。



富士市・富士宮市の境で、茶畑の土地改良計画が検討されている。集積・集約化で効率の良い茶づくりへ転換。



市内の文化祭でちぎり絵の先生に出会う。地域の文化や芸能などを発掘し、磨くことはこの街の魅力を増すことになる。



今泉地区の安全大会。市内でも最も人口の多い地域の一つ。地域全体で安心・安全なまちづくりを目指す。



県議会初の取り組みで、大学との相互連携に取り組んだ。

今も昔も変わりません。議員になって、なお一層ふるさとのことを知り、その将来に関わる立場の責任の大きさを痛感しています。今回、若い人達の提案を真摯に受け止め、これからの施策に生かしていきたいと思っています。

静岡県議会では、**大学との相互連携として初の静岡大学の学生との意見交換**を行いました。題材は「**静岡県の活性化と若者の地域定着促進に必要なこと**」です。

参加学生の内訳は、男性が9名で女性が1名の県内外出身者です。本県をどのように見ているのかは大変興味のあるところでした。

彼らからの質問や意見の内容は、私達議員が普段どのように若者と接しているか。県内大学の魅力をどう見ているか。医師の偏在。医療面から見た子どもを産み育てる環境あり方。人口減少が進む中、財源も厳しくなりまちづくりをどのように進めていくか。公共交通の果たす役割と課題。県施策の一環と



県議会傍聴後、静岡大学の学生10人と意見交換。

して取り組んだ、次代を担う若者達による県民会議でのアウトプットである「若者が望む社会のあり方」について。県外出身者から見た静岡県の防災対策と人口流出に影響する強みと課題。南アルプスを活用した観光振興。本会議を傍聴したやり取りの中から、富士山保全協力金のあり方について。若者の行政施策立案の場に参加する体制づくり。首都圏からUターンしてもらうための学生と企業との接触の場づくり(金沢市のゼロカフェを例に)。公共が表彰する子育て支援にやさしい企業を広く学生にPRすることの意義などです。



今回の出会いを**一過性のものとせず、これからも継続し、幅広い学生達との接点を設けることの重要性**を実感しました。特に、**政策立案の場に学生や若い人が参加できる「枠」の設定は必要**と感じています。

#### 4. 子ども虐待予防への取り組み



子ども虐待予防研修会で講演する、岡山大学中塚先生。

生後間もない子どもの虐待死が全国的に後を絶ちません。富士市と富士宮市にまたがる**富士圏域では、富士健康福祉推進センターと富士宮市、富士市母子保健・児童福祉担当課、管内産婦人科、助産所、精神科、小児科とネットワークを構築し、特定妊娠等気になる母子について情報を**

**共有し、早期支援**を図っています。

産婦人科等でのフォローは生後1ヶ月検診くらいまでであり、その後も切れ目のない支援を行うためには、母子との接触の多い小児科との連携が不可欠であることや、情報提供の内容で多かった母親の精神疾患に対応するためには、精神科との連携が必要であることから、平成28年度はネットワーク協力医療機関を小児科及び精神科へ拡大し、支援体制を拡充しています。

**富士宮市の助産院エス・アール・ハウスでは、思春期保健事業や母乳育児、産後ケアなどに取り組まれています。**思春期保健事業は、小中高等学校での性教育講座への講師派遣や、性教育に関わる人達へのセミナー、青少年ピアカウンセラー養成講座などのほか、思春期健康相談室や県委託事業



助産院エス・アール・ハウスで助産師の活動を聞く。

である「しずおか妊娠SOS相談」などを、NPO法人リプロダクティブヘルス研究会に参加して実施しています。

いわゆる未成年者の妊娠など、性教育が届かなく厳しい環境に追い込まれる現状対策への取り組みが求められています。子ども虐待対策研修会でも、未成年者の

出産による虐待や死亡事件などが頻繁に発生する状況が報告されていましたが、その原因と対策にはこの性教育の重要性が大きく関わってくるのが分かります。

母乳の持つ力が改めて見直され、かつて2割以下だった母乳は、現在では4割を超えるまで増えてきたといえます。

産後ケアは、初めての出産を経験した母親が、安心して子育てができる環境を提供し、マタニティブルーなどといわれ児童虐待などにつながる原因を排除するためにも大変重要な支援策です。現在では、その仕組みはあっても自治体によって異なり、受益者の負担が大きいといわれています。

**本県では、東部地区に助産師養成機関を準備中で、再来年に開校予定です。**安心して子供を産み育てるためには、**医療機関としての産科や小児科などが必要ですが、助産師が果たす役割も大きい**ことを理解しました。



自主防災訓練でDIG(図上訓練)の準備をする役員。事前に調査した地域情報を細かく地図上に落とししていく。



今秋の台風21号で鮫島海岸の歩道が破壊された。沿線に住む住民にとっては、生活環境の一部で早期復旧へ調査。



第5回富士山女子駅伝は12月30日に開催予定。コース沿い住民の皆さんは清掃作業に余念がない。裏方に感謝。



いまいづみ幼稚園恒例の餅つき大会。主力は祖父母達。地域の伝統や文化を高齢者達が広く子ども達に伝授。

## 5. 議会外の視察・研究報告

### 高知県地震津波対策、富士農林所管事業、看護の現場、CNF総合展示会



高知県室戸市の海岸からそそり立つ崖に設置された、津波避難シェルター。地震発生後短時間で押し寄せる津波避難対策として考案された。



高知県は静岡県と同様に、南海トラフ地震の震源域が目前にある。県担当者から防災対策について説明を受け、本県対策に生かす。



林業の活性化には、伐採や搬出の効率化が求められている。富士市桑崎地区で行われている高性能林業機械の効果を視察。



富士宮市猪之頭地区で取り組む、農業基盤と生活環境基盤整備、農業資源を観光振興に役立てるため、大手旅行社モニターツアーを視察。



富士宮市立病院を視察。医療スタッフの確保が困難な時代において、その対策は急務。ワークライフバランスや離職率を押さえる対策を聞く。



ふじさんめっせで開催された、CNF総合展示会には、多くの企業や研究機関と関係者が参加。写真はCNF強化樹脂製の自動車部品。

#### 老いて自らの人生を振り返り書き記す大先輩

私が尊敬する行政OBは今年九十二歳になりました。彼と出会った二十年ほど前と比べると、さすがに動きは鈍くなりましたが、頭の中、思考回路は全く錆び付いておらず、記憶力も神業としか言いようがありません。

その彼が、ご自分のこれまでの人生を振り返っての自叙伝「あと八年で一世紀」を執筆し、私もいただくことができました。その冒頭には、「あと八年で一世紀。八十八歳で仕事の関わりがなくなり、卒寿を超え余生と言われる段階に入ったが、いま、余った人生とは思っていない。与えられた命、プラス思考で生きることの楽しさ幸せを感じる毎日でありたい。九十歳を願みて記憶をもとに人生の証とする。」と書かれています。

健康寿命がトップクラスの本県ですが、身近にこのような先輩がいることは頼もしい限りです。

#### ◆12月議会で決定した国へ提出される意見書

- ① 保育人材の確保
- ② 人づくり革命に対応する私立学校の振興
- ③ 自動車損害賠償保障制度の安定的な運営の確保
- ④ 多文化共生に係る施策の充実
- ⑤ 食品衛生管理の国際標準化
- ⑥ がん治療環境の向上

#### ◆ホットなつぶやき

ブログの反応に一喜一憂しています。10月に開催された雨の中の市民福祉まつりは、天候が悪い中だったからこそ、普段気づかない障害者との接し方を学びました。この記事には私と同じように受け止めていただいたコメントをいただきました。一方で、県の情緒障害児治療施設を利用した方からは、厳しい現実を突きつけられました。どちらのコメントも私にとっては大変貴重な意見です。これからも自分の意見を率直に伝え、現実を直視し、議員としての厚みを増していきたいと思えます。

#### 県政相談窓口

地域の課題、道路・河川等の整備などについてのご相談窓口です。市と県、国の担当範囲が明確でない場合もありますが、こちらで判断致しますので、区別なくお気軽にお問い合わせ下さい。

ご相談いただいた内容については、必要に応じ関係機関に確認しますが、内容に応じてお時間がかかることもありますので、ご容赦下さい。

発行者：静岡県議会議員 鈴木すみよし事務所

「県政相談窓口」および「らしんばん」連絡先

静岡県富士市比奈1418番地の2〒417-0847

☎0545-34-0683 FAX.0545-38-0070

メールアドレス himena@tokai.or.jp

ホームページ <http://sumiyoshi.info/>

ブログ <http://blog.goo.ne.jp/>

